

# 救助と被災、両方の経験を伝える 中学校の「総合的な学習の時間」で防災講話



新潟地本（本部長 1陸佐 大倉正義）加茂地域事務所（所長 1陸尉 樋口茂）は3月16日（火）、五泉市立村松桜中学校の「総合的な学習の時間」において防災講話を実施しました。

これは、東日本大震災発生から10年を迎えるにあたり、生徒に震災の実態を伝え防災意識を向上させることを目的に行われたもので、同校から依頼を受けた加茂所長以下2名と、福島県いわき市出身で現在第30普通科連隊（連隊長 1陸佐 遠藤祐一郎）に所属する中山陸士長が参加しました。

当日は同校の2年生118名に対し、当初所長が東日本大震災時における自衛隊の災害派遣活動について映像を交えながら説明し、所長自身の出動経験も交えながら人命救助や生活支援、捜索活動などを紹介しました。続いて中山陸士長は震災当時小学5年生で自ら被災した経験を話し、その時に自衛隊から受けた生活支援や、自衛官との交流を通じて自らも自衛官を目指すようになったことなどを生徒に語りました。

生徒たちは初めて聞く「救助」と「被災」の両方からのエピソードを真剣な眼差しで聞き、終了後は「地震は本当に怖いものだと思います。自分が被災した際にどう行動するか、考えたいです」など災害に対する意識の変化を感じる声を聞くことができた他、

「（災害派遣の話聞いて）救助から生活のサポートまで、自衛隊は何でもできることがすごいと思いました」といった自衛隊の有する各種災害への対処能力に驚く声もありました。



新潟地本は、今後も各学校の防災教育に積極的に参加し、子供たちの防災意識の向上に寄与できるよう、取り組んでいきます。